

15. 瓢箪^{ひょうたん}から駒^{こま}

文豪^{ぶんごう}というのは作家^{さっか}の中でも
特に優れた作家^{さっか}を指^さします。近代^{きんだい}
の日本文学^{にほんぶんがく}の中で文豪^{ぶんごう}というとは
やはり夏目漱石^{なつめそうせき}でしょうか。漱石^{そうせき}
は、「坊ちゃん^{ぼっちゃん}」「こころ」など
の小説^{しょうせつ}を書いた作者^{さくしゃ}です。時代^{じだい}が
江戸^{えど}から明治^{めいじ}に移ろうとしている
時に、漱石^{そうせき}は江戸^{えど}で生まれまし
た。両親^{りょうしん}が年をとってからの子供^{こども}
であったのと末っ子^{すえこ}だったという
理由^{りゆう}で、1歳^{さい}の頃^{ころ}養子^{ようし}に出されま



した。しかしながら、養父母^{ようふぼ}が離婚^{りこん}したため 8歳^{さい}の時に夏目家^{なつめけ}に戻^{もど}
ります。その後^ご、成績^{せいせき}が優秀^{ゆうしゅう}だった漱石^{そうせき}は、一生^{いっしょう}懸命^{けんめい}勉強^{べんきょう}して、
東京帝国大学^{とうきょうていこくだいがく}(現東京大学^{げんとうきょうだいがく})の英文科^{えいぶんか}に入学^{にゅうがく}します。非常^{ひじょう}に優秀^{ゆうしゅう}で
大学の成績^{せいせき}はいつもトップだったそうです。しかしながら、この頃^{ころ}か
ら漱石^{そうせき}を死ぬまで悩ませる神経衰弱^{しんけいすいじゃく}が始^{はじ}まったらしいのです。

ようじき　ようし　けいけん　あにたち　し　そうせき　しんけいすいじゃく　りゆう
幼児期の養子の経験や兄達の死などが漱石が神経衰弱になった理由
だろうと言われていました。

だいがく　そつぎょう　そうせき　まつやま　ちゅうがっこう　くまもと　こうとうがっこう　きょうし
大学を卒業した漱石は、松山の中学校や熊本の高等学校の教師
として英語を教えます。この頃、漱石は結婚しますが、妻は流産で
精神的に不安定になり結婚生活はあまり上手くいかなかったようです。

けっこんせいかつ　ふあんてい　けっこんせいかつ　う　ま　*　そうせき
結婚生活はともかくとして、研究の面では評価され*た漱石は、
1900年に文部省から英語研究のためにイギリス留学を命じられます。

ねん　もんぶしょう　えいごけんきゅう　りゅうがく　めい
せ　かく　イギリスに渡った漱石ですが、現地の物価は高く、国からの

せいかつひ　まんぞく　せいかつ　むずか　せい　か
生活費では満足な生活は難しく、そのあげく成果をあげなければい

けないというプレッシャーから漱石は再び神経衰弱になってしまい

ます。漱石は勉強どころではなくなり、日本に帰国するよりほかあ

りませんでした。1903年に日本へ帰国後、漱石は大学で講師の仕事

しますが仕事は上手くいかず、そのせいで**相変わらず神経衰弱も

よくなりませんでした。そんな折り、親友に気晴らしに小説を書い

たらどうかと勧められ、出来上がったのが「吾輩は猫である」という

題名の小説です。1905年にこの小説が発表されて人気を得ると、

漱石は「坊ちゃん」「草枕」と次々に小説を発表し、作家を

職業しよくぎようにするようになります。「瓢筆ひょうたんから駒こま」という諺ことわざはこんなことを言うのでしょうか。

このように気晴らしきばから始はじまった作家活動さつかかつどうですが、漱石そうせきが作家として活躍かつやくしたのは亡なくなるまでのたったの10年ねんぐらいです。その短みじかい活動期間かつどうきかんにも関わらず、素晴すばらしい作品さくひんを多く残おのこし、漱石そうせきは文豪ぶんごうと呼ばれるようになりました。英文学者えいぶんがくしゃとして成功せいこうせずに作家さつかとして成功せいこうするということは、おそらく漱石そうせきも考かんがえていなかったでしょう。人生じんせいというのは本当ほんとうに予想よそうのつかないものだと思おもいます。

単語リスト：

文豪（ぶんごう）Văn hào, nhà văn lỗi lạc

養子（ようし）Con nuôi

夏目漱石（なつめ そうせき）Natsume

Souseki, Nhà văn nổi tiếng của Nhật Bản

離婚（りこん）Ly hôn

優秀（ゆうしゅう）Ưu tú

神経衰弱（しんけいすいじゃく）Suy nhược thần kinh

流産（りゅうざん）Sảy thai

気晴らし（きばらし）Thoải mái, thanh thản

勧める（すすめる）Giới thiệu, khuyên

諺（ことわざ）Tục ngữ